Ⅱ 委託研究課題概要

<研究概要様式>

【2020年度採択 連携研究スキームによる研究】

課題番号(e-Rad課題ID):20352884

研究テーマ:「農福連携の地域経済・社会、障害者の心体への効果に関する研究」

委託研究課題:「農福連携効果の学際的かつ定量的研究」

- 1 研究実施期間(西暦):2020年度~2022年度(3年間)
- 2 予算規模:10,000千円(2021年度)
- 3 中核機関・役職・研究総括者 東京都健康長寿医療センター研究所・自立促進と精神保健研究チーム専門副 部長・岡村毅
- 4 研究の目的・達成目標

障がいがあるひとや高齢の人が農業に従事することの効果を定量的に把握することが目的。そのために、1)学際的研究プラットフォームを形成し、2)定量的研究を遂行し、3)効果的な農福連携の取り組み方を解明することを目標とする。

5 研究の内容および実施体制

- ① 農作業が障がい者の精神機能へ与える効果:農作業への継続的な関わりが 農業に従事する障がい者等の前頭前野の賦活に与える効果について脳血流 測定により検証。 兵庫県立大学が中心となり、関西地区にて実施。 (兵庫県立大学)
- ② 農作業が障がい者の心体機能へ与える効果:農業に従事する障がい者等が 農作業に取組む際の心と体への影響や生産性向上についての定量評価調査 表の開発、定量評価結果の分析。農研機構・兵庫県立大学が連携して実施。 (農研機構、兵庫県立大学)
- ③ 農作業が身体機能に与える効果と生産性との関連:作業者(障がい者・健常者)を対象とした身体活動量調査、障がい者等が行う作業の生産性の把握、 事業所を対象とした営農実態調査により検証。(農研機構)
- ④ 認知症がある人が稲作を中心としたケアに従事するプロジェクトを継続・深化する。同時に対照群を設定して分析することでより強いエビデンスを得る。 (東京都健康長寿医療センター研究所、川室記念病院)
- ⑤ 上記④を実施してきた医療機関の現場(様々な専門病棟や外来)で農福連携を実装する。(東京都健康長寿医療センター研究所、川室記念病院)
- ⑥ 高齢化の進んだ都市部大規模団地で、認知機能の低下した高齢者を対象と する農福連携のプログラムを開発する(東京都健康長寿医療センター研究所)
- ⑦ 8050問題に対して、「農」を解として提案し、社会実装を探る。 (文京学院大学、東京都健康長寿医療センター研究所)
- ⑧ 社会的に孤立している人に対する農を用いた支援制度の現状と課題を把握 する(田園調布学園大学、東京都健康長寿医療センター研究所)
- 6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

農福連携が地域農業、地域経済、社会へ与える好影響を支えている一因には、農作業に従事する障がい者等の健康改善がある。これについて①~④で定量化することでエビデンスに基づく農福連携へと発展する。それを踏まえて⑤~⑧で、医療現場、大都市等の様々な領域へ農福連携を拡大する。

【連絡先:東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム 03-3964-3241(4218)】

委託研究課題名

農福連携効果の学際的かつ定量的研究

令和2年度連携研究スキームによる研究⑥「農福連携の地域経済・社会、障害者の心体への効果に関する研究」 農福連携効果の学際的かつ定量的研究

すべての人の 幸せの実現

国家戦略

農林水産政策研究所

農林水産省

連携研究「農福連携の取組の地域経 済・社会への効果と効果的な発揮に 関する研究」

> 全国の優れた実践家のネット ワーク作り、エンパワーメント

> > 理論、根拠、勇気 社会実装

エビデンスに基づ く政策(EBP)

協働

量的研究手法を持つ農福連携研究者が全国から集結し、1)研究プラットフォ ムを形成、2)定量的研究を遂行、3)効果的な取り組み方を解明。

> 西日本:兵庫県立大学、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東日本:東京都健康長寿医療センター、田園調布大、文京学院大、川室記念病院

農作業が精神機能 (前頭前野賦活) に与える効果検証

心体や生産性 向上へ与える 効果について 調査表開発

身体機能に 与える効果と 生産性との 関連の検証

認知症の人 への農作業 の効果の定 量的分析

医療現場に おける農福 連携の取り 組みの研究

都市等にお ける農業を 用いた地域 づくり研究

「8050問題」に対する農を用いた支援プログラムの開発

社会的に孤立している人に対する農を用いた支援制度の現状と 課題の把握